

〈第26回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

全 体 報 告

環境システム計測制御学会 企画委員長

山 田 顕 寛

(株)日立製作所

第26回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会は、10月23日(木)～10月24日(金)の2日間にわたり、滋賀県大津市のピアザ淡海 (滋賀県立県民交流センター) において開催・実施され、延べ155名様のご参加を頂き活発な討議が行われました。関係各位、ご参加いただきました各位に厚く御礼申し上げます。以下、本研究発表会の全体概要についてご報告致します。

初日23日は基調講演およびパネルディスカッションがピアザ淡海「ピアザホール」で開催されました。当学会会長である清水芳久氏 (京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター 教授) による開会挨拶に始まり、堺井 拓氏 (滋賀県琵琶湖環境部 部長) ならびに、越 直美氏 (大津市 市長) のお二人より来賓ご挨拶を頂戴いたしました。

基調講演では「世界水銀汚染と水俣」と題して、赤木洋勝氏 (国際水銀ラボ所長 元環境省国立水俣病総合研究センター 国際総合研究部長) から、水俣病発生の主要因と影響、自然界への無機水銀放出からメチル水銀への変化および小規模金採掘に伴う水銀汚染が深刻化しているブラジル・アマゾン川流域の状況についてご講演を頂きました。

パネルディスカッションでは、「水俣条約批准に向けた対応と課題」と題し、座長を高岡昌輝氏 (京都大学大学院地球環境学 教授)、パネリストとして永淵修氏 (滋賀県立大学環境科学部 教授)、若林完明氏

(京都市環境政策局ごみ減量推進課 担当課長)、石川浩二氏 (株)堀場製作所エナジーシステム計測開発部)、前田典生氏 (株)タクマ技術開発部 部長) の各位にご参加いただきました。ディスカッションではまず、永淵氏より小規模金採掘や火力発電などの石炭燃焼による水銀排出量が人為的排出量の50～60%を占めること、日本が排出量の多い東アジアの風下にあり、モニタリング体制の構築が急務であることが紹介されました。また若林氏からは京都市の水銀含有廃棄物の回収への取り組み状況と成果について紹介を頂きました。続いて石川氏と前田氏からは測定技術やプラント技術の状況と課題について紹介がありました。これらを踏まえて、今後人為的排出をどのように抑えるかの取り組みや管理のための監視・計測技術について意見交換・議論を実施しました。

続いて平成26年度奨励論文賞の授賞式が行われ、多数の論文から選考委員会で選ばれた6件について環境システム計測制御学会 片山 学幹事長 (月島機械 (株)) から報告があり、同会 清水芳久会長から表彰状と副賞の授与が行われました。

この後、場所を「びわ湖大津館」に移し交流会を催



Photo 1 基調講演 赤木氏



Photo 2 座長 高岡氏



Photo 3 パネルディスカッション パネリスト

しました。この施設は昭和9年に建設された当時の姿をそのままに復元改修され、かつてのクラシカルモダンな雰囲気がただようホールで賑やかに開催されました。交流会は清水芳久会長の挨拶ならびに早稲田邦夫名誉会員の乾杯でスタートし、基調講演を頂戴した赤木洋勝氏や奨励論文賞の授賞者の皆様などのスピーチを頂戴しながら、ご来賓・講師の諸先生と参加者による有意義な情報・意見交換の場となりました。

翌24日は、環境システム計測制御学会の基本趣旨である、上下水道や廃棄物処理等の環境分野から、水処理や焼却処理技術・監視制御計測システム・維持管理・エネルギーなどに関する幅広い分野について産官学の各分野の研究者・技術者による論文発表38編と、新・未来プロジェクトによる研究発表4編が3つのセッションに分けて行われました。各発表や質疑では比較的若手の研究者・技術者からの積極的な発言が多い傾向が見られ、今後のご活躍が期待できる発表会でありました。



Photo 4 セッションの様子

最後に、今回のご講演・パネルディスカッションならびに研究発表会において得られた研究成果や情報交換、議論が今後の環境分野の発展・研究へのワンステップとなり、更に多くの研究成果につながりますことを祈念いたしましてご報告を締めくくります。